

地域中核大学イノベーション創出環境強化事業 令和5年度採択校アワード審査調書

法人名：国立大学法人鹿児島大学 大学名：鹿児島大学

(1) 本事業による効果（令和5～6年度）

南九州・南西諸島域の中核拠点大学である鹿児島大学（以下「本学」）は、本事業により地域貢献・イノベーション・多様性を軸とした三つの事業（基幹産業である畜産業の振興拠点「i. 南九州畜産獣医学拠点」、産学官によるイノベーションの創出をめざす「ii. サーキュラーエコノミー（CE）実証事業」、特色ある研究を発掘する「iii. 鹿児島大学先端研究集成館事業（先端研究集成館事業）」）を展開し、「iv. 南九州・南西諸島域イノベーションセンター（イノベーションセンター）」がその基盤を支えるという体制（図1）で拠点環境強化を推進してきた。以下に各事業2年間の実績及び「羅針盤」（図2）の5つの【観点】の主なアウトカム・指標と効果【評価：令和4年度→令和6年度】を記す。

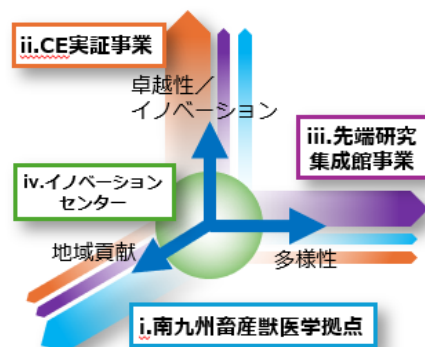


図1 地域中核大学としての取組

i. 南九州畜産獣医学拠点

【①多様性と卓越性】【研究拠点の形成：2→5】日本屈指の畜産基地である曽於市に動物福祉に配慮した先進的モデル農場（飼養規模：牛350頭、肉鶏5,000羽、馬20頭）を含む「南九州畜産獣医学拠点」を整備（内閣府地方創生拠点整備交付金、JRA競馬振興特別助成金）。令和5年9月、共同獣医学部附属南九州畜産獣医学教育研究センター（SKLVセンター）設置。文科省経費等（総額287.5百万円）を基に、産学官連携による地域産業の創生、畜産物及び加工品の理化学成分分析と食味官能評価システムの構築、高病原性鳥インフルエンザ検査体制及び和牛生産のための体外受精・胚培養実施体制を整備。令和6年4月からモデル農場におけるICT等技術を活用した持続可能な畜産農場経営の実践事業（5件、総額705.2百万円）、肉の美味しさの可視化検査業務（8件、10.3百万円）、鹿児島県・県内牛生産事業者・味の素(株)との牛から排出される温室効果ガス削減と生産コスト低減・生産性向上を図る畜産GX化事業（25百万円）及び鹿児島県立鹿屋農業高校・(株)南州エコプロジェクトとの“純国産和牛・黒豚”の生産実現へ向けた産学プロジェクトを実施。共同獣医学部附属越境性動物疾病制御研究センター（TADセンター）と連携し、ABSL3等を配備した本学先端科学研究推進センター・スピルオーバー感染制御研究施設（令和6年度文科省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」430百万円）において高病原性鳥インフルエンザ等の感染症制御研究に参画。

【③地域貢献】【地方創生への参画：3→4】令和6年度、全国畜産・獣医学部生の一週間滞在型実習を132名受入。農場経営者・畜産技術者・獣医師を対象にした企業共催リカレント教育「SKLVセミナー」を11回開催（400名超）。令和6年度JST「次世代科学技術チャレンジプログラム」（10百万円×5年間）として本学教育学部と「小中学生の畜産・獣医学の仕事体験」を実施。産学官連携先行事例視察、乗馬クラブ、畜産・環境系3事業者のオフィス入居、カフェレストラン、放課後児童クラブやホースセラピーの受入等により、令和6年12月末、全国からの来場者が曽於市人口（3.26万人）の半分を上回る1.7万人を突破。賑わいを失いかけていた県立高校跡地とその周辺が地域一の賑わいの地に変貌。大学の知を活用した地域創生の好事例を創出。

ii. CE実証事業

【③地域貢献】【地域イノベーション・エコシステムの形成：3→5】令和6年2月、九州電力(株)、サーキュラーパーク九州(株)、薩摩川内市と連携協定を締結し、九州電力川内火力発電所跡地（薩摩川内市）に整備された「サーキュラーパーク九州（CPQ）」において酵素によるナイロン廃棄物のリサイクルを中心とした産学官による「CE実証事業」（総額8.6百万円）を開始。

【①多様性と卓越性】【研究拠点の形成：2→5】研究成果の社会実装を加速させるため、CPQ施設内に九州における未利用廃棄物の資源循環実証実験・研究室「サテライトラボ」を整備。

iii. 先端研究集成館事業

【①多様性と卓越性】【チーム型研究の推進：3→4】学長のリーダーシップの下、特色・強みの更なる強化を目的に「先端研究集成館事業」を創設。卓越した研究「先端研究プロジェクト」10件（総

額 670 百万円分) を選出し、大型研究の推進を強化。

iv. イノベーションセンター

【⑤マネジメント】[共同研究費用負担の適正化：2→4] 令和 5 年度より「学術コンサルティング制度」、令和 6 年度より知の対価としての「学術貢献費」制度及び戦略的な大学リソースの運用をめざした「戦略的産学連携経費」制度を構築。財源多様化による経営基盤を強化(計 21.5 百万円)。

【②社会実装・イノベーション】[共同研究等の推進：3→4] URA、知財専門家、事業化支援担当者及び外部専門家による「メディカルイノベーションチーム」を結成し、ライフサイエンス分野の外部資金獲得を推進(令和 6 年度 AMED プロジェクト費：33.8 百万円)。[起業：3→4] 学生・教員を対象としたビジネスプランコンテスト「KADAI STARTER's PITCH」を開催。農研機構及び JST の SBIR 事業 2 件、JST スタートアップエコシステム形成支援事業「PARKS」ギャップ資金 2 件、同学生プロジェクト 1 件採択(総額 41.9 百万円)。認定ベンチャー数 2 社増(13 社)。[インキュベーション施設の整備：3→5] 産学交流プラザ棟 2 実験室整備(16 室入居率 100%)。[ライセンス：3→4] 外部支援機関を活用したライセンス実施強化。ライセンス数 33 件増(173 件)。

【④研究環境】[事務 DX：2→3] 有体物管理専門教員 1 名採用。「有体物管理契約システム」構築。[研究力強化：2→4] Top10% ジャーナル掲載論文のオープンアクセス費用支援、学長裁量ポイント活用による PI 支援、優れた若手研究者に研究教授等の称号付与等を実施。

【③地域貢献】[地域イノベーション・エコシステムの形成：3→5] 研究シーズのショーウインド「オープン実証フィールド」を 7 地域に設置し、プロジェクト 8 件を実施。その一部は「鹿児島県デジタル水産業推進コンソーシアム」に指定、令和 6 年度水産庁「デジタル水産業戦略拠点」に認定。[地方創生への参画：3→4] 「鹿児島大学奄美群島拠点」に産学地域連携コーディネーター 1 名を配置。奄美群島自治体・企業との連携を強化。

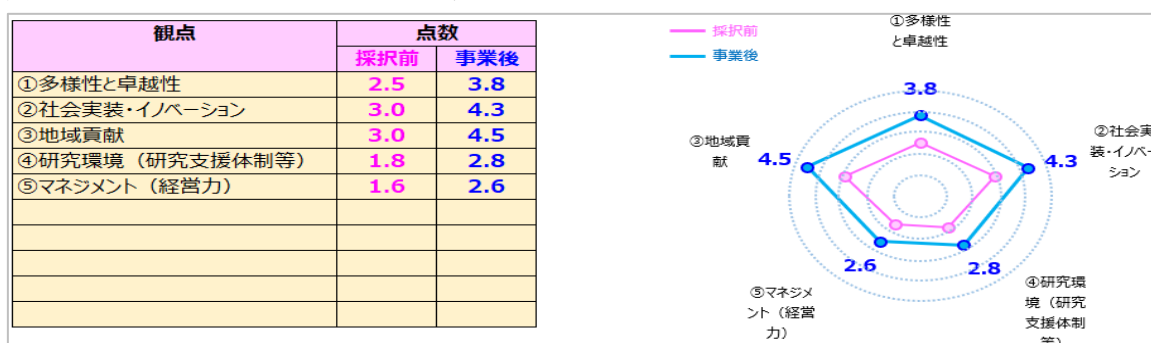


図2 本事業採択前後(R4年度末時点・R6年12月末時点)

(2) アワード獲得による効果(令和7年度～) ※[評点：令和6年度→令和7年度～]

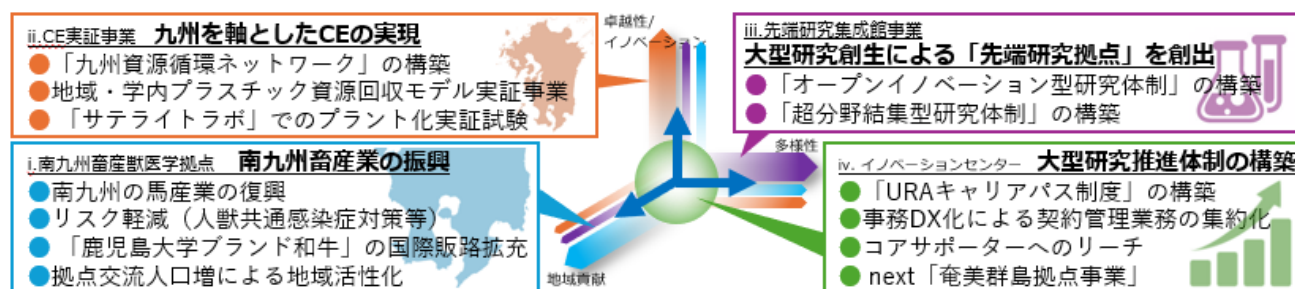


図3 アワード獲得後の効果概要

i. 南九州畜産獣医学拠点「南九州畜産業の振興」/70 百万円

【①多様性と卓越性】[研究拠点の形成：5→5] 国内大学で唯一の馬専用二次診療施設「共同獣医学部附属動物病院・軽種馬診療センター」と連携し、拠点内の馬飼養管理施設(厩舎・屋内外馬場等)に屋外用ウォーキングマシン、心肺機能負荷が可能なトレッドミルシステムを整備し、競走休養馬の競技復帰までのリハビリテーション機能を拡充。また検査機器(内視鏡・定点カメラ等)と教育用馬模型を導入し、運動効果の科学的検証結果に基づく馬獣医学の教育・研修を推進。南九州における馬産業の復興に貢献。体内動態に基づく牛肺炎の抗菌薬療法や AI 監視による疾病牛の早期検出法確立による子牛損耗の最小限化、「スピルオーバー感染制御研究施設」の TAD センターと連携した人獣共通感染症のサーベイランスや制御法開発等、畜産業のリスク軽減のための研究拠点

を形成。

【③地域貢献】[地方創生への参画：4→5] 畜産獣医学の教育研修に加え、生産管理者や販売業者との連携により「動物福祉に配慮した家畜生産」と「美味しさ食肉分析結果の表示」を付加価値とする「鹿児島大学ブランド」畜産物の商品化や和牛の欧州等への国際販路の拡充を推進し、畜産振興に貢献。全国の研究者・技術者・学生と地域の畜産・環境系事業者との交流に発する新たな技術開発、教育・保健医療分野連携による人・動物・環境の健康化事業等、大学の知を基盤とした交流人口増による地域活性と地方創生を推進。

ii. CE 実証事業「九州を軸とした CE の実現」／8 百万円

【②社会実装・イノベーション】[共同研究等の推進：4→5] 本学が基幹大学となり、九州内の産学官による CE プラットフォーム「九州資源循環ネットワーク（仮称）」を構築。「地域・学内プラスチック資源回収モデル実証事業」及び「サテライトラボ」でのプラント化実証試験を通じて、九州における CE 実証事業を牽引。

iii. 先端研究集成館事業「大型研究創生による先端研究拠点の創出」／6 百万円

【①多様性と卓越性】[チーム型研究の推進：4→5] 社会課題解決に向けた教員・企業人・院生等による「オープンイノベーション型研究体制」及び研究 IR に基づく本学の研究の強みを融合させた「超分野結集型研究体制」（令和 6 年度文科省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」申請中）を構築し、大型外部資金を獲得して「先端研究拠点」を創出。

iv. イノベーションセンター「大型研究推進体制の構築」／16 百万円

【④研究環境】[URA キャリアパス：1→4] 戦略的産学連携経費を活用して長期的視点に立った「URA キャリアパス制度」を構築。OJT 等を通じて研究企画力・管理力を備えた URA を育成して大型研究の立案・獲得・運営を推進。[事務 DX：3→5] 研究 IR ダッシュボードシステム及び共同研究等契約管理システムを開発し、知財管理システム及び有体物管理契約システムと統合して研究情報ビッグデータを構築し、契約管理業務の集約化、契約チェック・情報発信の迅速化による将来の契約業務一元化（業務改善）と研究 IR 推進（価値化）に利活用。

【⑤マネジメント】[経営戦略体制の整備：1→3] 企業研究所を誘致するインキュベーション区画の整備、トップセールスの場として鹿児島大学同窓会連合会と連携した「鹿児島大学 CEO クラブ（仮）」及び県執行部との懇談会等を通じて本学のコアサポーターへリーチし、共同研究やライセンス等の受入・活用へ発展させる仕組みを構築。

【③地域貢献】[地域イノベーション・エコシステムの形成：5→5] 奄美群島内にオープンイノベーション型実証プロジェクトを構築。世界遺産地の環境文化の持続的発展と高度専門人材育成への貢献を通じて「奄美群島拠点」を強化。

上記により、研究環境・マネジメント体制を強化し、地域と大学を繋ぐハブとなり、南九州・南西諸島域の社会変革を推進。

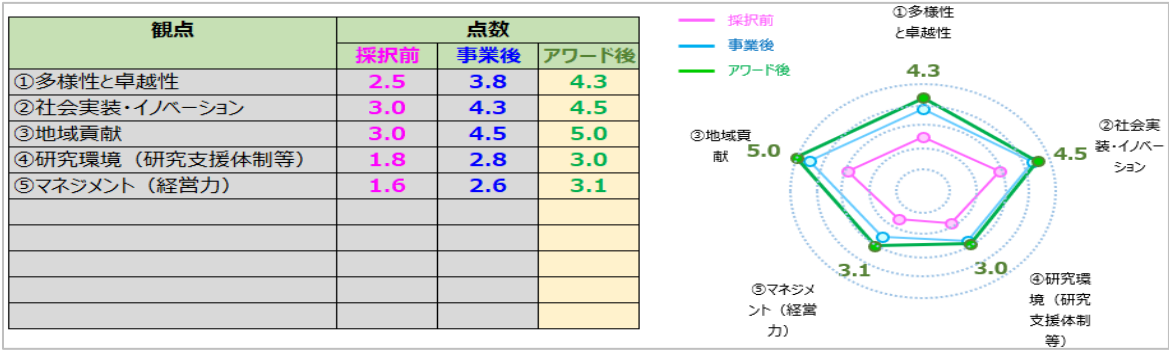


図4 アワード採択後（R7 年度末時点）

表1 アウトカム・指標についての実績

年度	令和4年実績	令和5年実績	令和6年実績 (12月末時点)	令和7年度 見込み
外部資金獲得総額（円）	531,883,333	581,053,465	636,850,151	698,004,812
案件（件）	154	146	155	170